

扶桑菅廟最初
防府天満宮

佐加太利とは御鎮座地天神山の古来名「酒垂山」からとったものです

佐加太利

令和3年
春夏号

107号

目次

1 点描／御神木（樹齢八百年の楠）

2 巻頭言

3 崇敬会だより
〜発足二十年によせて〜

5・4 絵巻を歩いてみました。すると…
絵巻は地図だった！

7・6 防府天満宮鎮座考と御神幸祭 **中**
〜左遷のみぎりにみる西下の経路〜

8 日々是好日
〜茶室「芳松庵」開館二十年によせて〜

9 TOPICS
ご結婚おめでとう
ひたぶる

11・10 社務所だより
天神様の冬から春〜日誌抄〜

12 これからの祭事行事案内



第六巻 9m20cm

第五巻 13m31cm

第四巻 12m12cm

第三巻 13m80cm

第二巻 14m30cm

第一巻 13m10cm



努力は報われる

宮司 鈴木宏明

この夏行われる東京オリンピック・パラリンピックの出場をかけてアスリートたちは^{しの}凌ぎを削っています。

女子水泳の池江璃花子選手もその一人です。皆さんもご承知の通り、彼女は二年前に白血病と診断されましたが、一年にも及ぶ苦しい治療に耐え病を克服しました。そして復帰をめざしての壮絶な練習を繰り返し、悲願の五輪出場を勝ち取ったのでした。レース後のインタビューに応え、歓喜の涙とともに「つらくてしんどくても『努力は報われる』と思った」と話しました。誰もがつい口にしがちな言葉ではありますが、報道により彼女の試練を知る私たちは、そのことばに深い感動と大きな勇気をもたうことができました。

この池江選手の晴れがましい姿は、これから試練に立ち向かう多くの若者にとって大きな力となるに違いありません。

私たちは今、全世界規模でコロナ禍という試練の只中にいます。簡単にはこの試練を乗り越えることはできないと思いますが、人類の叡智を集結し「努力は報われる」日がいち早く来ることを願っています。その上でオリンピック・パラリンピックの成功と池江選手をはじめ日本選手の活躍を期待したいと思います。

さて今年には当宮茶室「芳松庵」が開館して三十年、また崇敬会が発足して二十年という節目の年となりました。これも偏に多くの氏子崇敬者の方々のお支えの賜物と心より感謝申し上げます。

茶室は長い月日と共に建物と草木も馴染み、月次茶会をはじめ拝観者の方にお茶と四季折々の風情を楽しんで頂いております。また崇敬会は有難くも広く趣意にご賛同戴き、「誕生祭健康祈願」御守の授与など多彩な特典をご享受頂いております。本来ならばこの記念の年を皆様と共に祝いしたいところではありますが、残念ながら世情に鑑み諸行事は控えさせて頂きました。

今後ともコロナの終息と御神徳の發揚を願い努力を重ねてまいりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

※本ページの天地に掲載した(重文)松崎天神縁起絵巻は、全六巻計約75メートルにおよびます。本号ではその ■ の部分を紹介しています。

第六巻 9m20cm

第五巻 13m31cm

第四巻 12m12cm

第三巻 13m80cm

第二巻 14m30cm

第一巻 13m10cm



「天神様との
ご縁の深さ」



会長
福田百合子

崇敬会発足二十周年を迎え、年月の移りゆきの速さに驚きます。そして、天神様とのご縁の長さに改めて感慨を覚えるのです。

私の曾祖父、文吉郎は文化に深い関心を示す人で、家業の外郎屋中興の祖と呼ばれました。特に天神様の遺徳を尊んで、毎年十一月満月の夜、御神幸祭「裸ん坊祭り」には大張り切り。夜通し店を開けていたそうです。白のさらし木綿を裸身に巻いた若者たちが、山口から防府へ向かって走る姿を応援、街道沿いの外郎屋の外縁に渋茶と外郎を準備、夜明けの帰りも待ってもてなしたのです。外郎の売れゆきも上々で、曾祖父は天神様への感謝を天満宮玉垣寄進という形で表しました。石材の細い面に「金百圓山口御堀福田雄太郎」と早逝した息子の名前に思いを籠めています。



▲中庭にある天神様の祠

昔公に因んで、梅の木を愛し、庭先に「梅が香にのっと日の出る山路かな 芭蕉」と刻んだ自然石の句碑を建て、自らも「梅旭」と号し、屋号も「梅旭堂」としました。

商家として、店には天照皇大神宮の神棚があり、台所のトシトコ様、井戸側の



▲御神忌千年大祭(明治35年)に寄進された玉垣。(大石座右側)



▲本年5月1日の崇敬会大祭は福田会長と宮司夫人が参列。「天神の舞『榊舞』」をご奉納し、会員の皆様方のご健康とお幸せをお祈り致しました。

水神様の他に、中庭に祠を構えた「天神様」があります。毎月一日、榊のお供えは、外郎屋の末娘である私の役目でした。外郎の作り手だった長兄がシベリアで亡くなり、廃業し寂しい限りですが、今崇敬会のご縁を有難く、本当に幸せませす。天神様とのご縁の深さを心より感謝し、二十周年のご挨拶と致します。



▲芭蕉の句碑



▲豪商図録(明治4年頃)掲載の外郎屋(江戸後期繁栄の様子)

絵巻を歩いてみました。すると…

絵巻は地図だった！

11回行われた研究会の集大成として行われたシンポジウム（平成31年3月2日）では松崎天神縁起絵巻（以下本絵巻と記す）の国宝への道（昇格）が提案されましたが、そのためには数ある天神縁起絵巻の中でも本絵巻は「鎮座地が描かれた絵が付け加された『ご当地縁起』という新ジャンルである」ことが必要との見解が示されました。そこで、本絵巻の第六巻に描かれた町が「この度作成した菅公がご覧になられた当時の防府を再現した地図と一致すれば本絵巻の中の鎮座地が現在の防府であると証明できる」という仮説のもと、太郎と花子が本絵巻をもとに菅公ご着船の地AからB・Cそして防府天満宮まで市内を歩いてみました。すると…

防府の町を描いたといわれる松崎天神縁起絵巻 第六巻



シンポジウムで発表された「菅公がご覧になった防府の地形」（部分）



CGで蘇る松崎天神縁起絵巻

松崎天神縁起絵巻を紹介する動画が制作されました。絵巻の立体映像、菅公がご覧になった防府の復元地図や絵巻に登場する防府の場面と現在の防府市内の地形を照らし合わせるなど、この度の検証を更に詳しく知ることができます。案内役として山口放送の高松綾香アナウンサー（防府市出身）が務めています。是非ご覧ください。

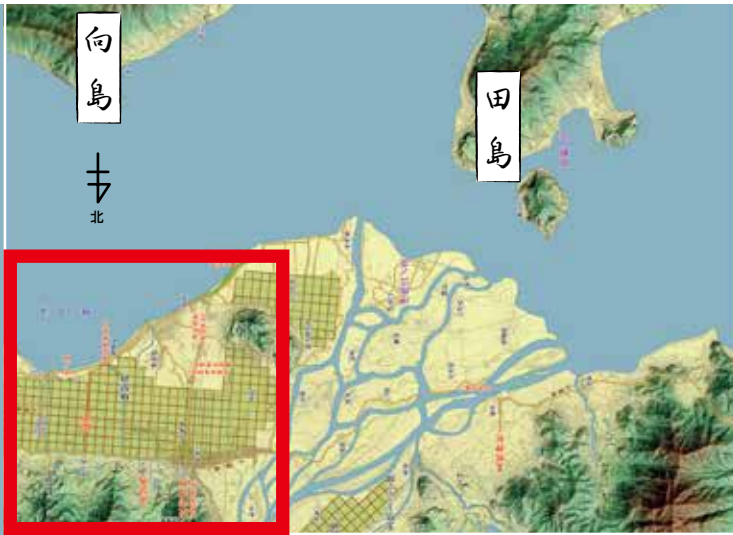


スマートフォンで二次元コードを読み取ってご覧ください

松崎天神縁起絵巻 動画

検索

【松崎天神縁起絵巻 動画】
で検索してください



絵巻には天満宮を中心とした風景が描かれているけれど、本当に菅公がご覧になった防府なんだろうか？

じゃあ絵巻にそって歩いてみようか！



鞠生の松原

絵巻を見てみると港に船が描かれているね。菅公もここ勝間の浦にご着船されたんだ。今は御神幸祭「裸坊祭」の御旅所になっているよ。



勝間の浦
菅公ご着船の地

ここが菅公がご覧になられた海岸線あそこに見えるのが向島や田島は遙か海の向こうだったんだよ。だからここから南は低くなっている。防府市のハザードマップの高潮浸水ラインにもなっているんだ。



Aポイント 勝間の浦



鎌倉時代(応安元年(1371))に防府を訪れたお坊さんが「海にはいくつかの島があり船が行き交っている。家がある辺りは国衛。北の山には天満宮があり南に約2キロまっすぐに伸びる道が続き、海が見える。道の途中には鳥居があり、川が流れ橋などをかけている。」と、日記に残しているんだ。

絵巻に描かれた風景と一致しているね。



Cポイント らんかん橋



これはらんかん橋。天満宮はすぐそばだね。



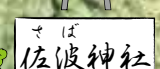
Bポイント 砂溜まり



この土地は砂地でどうしても砂が流れてしまうんだね。だから砂溜まりを作ったんだろうね。今でも名残があるね。

この川の描き方は不自然だよ。どうして上流側に川下が向けてあるんだろう？

佐波川より条里に水を通す川



さばと川 (佐波川より取水)

絵巻には橋はあったがらんかんはなかった…。でも橋は天満宮から真っすぐに伸びる道のうえにあるね。

絵巻は地図なんだ。

距離感はぴったりじゃないけれど、絵巻を歩いてみると菅公がご覧になった防府の地形と重なるね！



防府天満宮 鎮座考と 御神幸祭

中

左遷のみぎり

西下の経路

松崎光太郎



▶
三季天神像
無実の罪で太宰府に流された際の無念から憤怒の表情を浮かべる「怒り天神」の1つ。本作以外2点が防府天満宮に伝わる他に、全国で3箇所しか確認されていない特異な図で三季の由来も典拠も明らかになっていない。(越智学芸員)

今回は「左遷のみぎりの足跡にみる道真公の心情」と題して京都から太宰府までにいたる道中に残る道真公の足跡から心情の変化を読み解いていきました。
今回は京都から太宰府までの左遷ルートについて⑤で紹介した伝承や各天満宮の創建のいわれや天神縁起絵巻、そして左遷後の道真公の漢文や詩歌を収めた「菅家後集」を基に迫っていききたいと思います。

まず京都から太宰府までの左遷のルートについてこれまでの研究者の説を検証しましょう。

・代表的な3説

○海路説

歴史書や「菅家後集」を引きつつ各地の天満宮の伝承に即した説。

○陸路+海路説

菅公御足跡調査を通じ、伝承地の存在を重んじつつ、詠まれた海と陸の情景の割合を考えた説。

○陸路説

西下の旅の状態を知るうえで「山城・摂津の国、食・馬を給することなかれ。路次の国また宜しくこれに準ぜよ」という命令があり、中世において罪人は舟の使用を認められていなかった、との見解による説。陸路説は資料を重視する人の意見に根強い。



▲「重文松崎天神縁起絵巻 2巻」船に乗り瀬戸内海を進む様子が描かれている。



▲松山市味酒地区に鎮座する阿沼美神社

左遷のルートについて未だ定説はありません。「海路説」「海路+陸路説」は、道真公ゆかりの地にある伝承説が「史実か史実ではないか」との論点にはたえず、それらが千百年以上の時間を越えて残っているという事実と、そこにある天神信仰の重要性に力点を置いて考察されたものといえます。「陸路説」のように資料も重視しなくてはいけません。天神さまを崇敬する者としては天神信仰の偉大さだと考えると伝承も史実とあながち無縁のものとも思えません。
以上の先達の説を踏まえた上で、私なりに菅公の行程を考えてみます。

①「伝承」より菅公の御祖先（土師氏）のゆかりの地を考察する

左遷の経路に関わる地域では、土師が地名として残っている地・社名に土師がつく神社のある地・土師氏が創建に関わった社寺のある地この3つの地と伝承の残る地と重なっています。おそらく菅公は左遷のみぎり、祖先である土師氏ゆかりの地には積極的に訪問されたと考えられます。

またこれ以外の地で一点押さえておきたいのは愛媛県松山市味酒町に鎮座する阿沼美神社です。社伝によれば「慶長7年味酒神社と称され、明治3年阿沼美神社に改めた」とあり、現在も撰末社の中に「味酒天満神社」があり「菅公の門弟味酒安行が創建」とあります。味酒家の祖先（奈良の平群氏）は昔に伊勢と松山に別れており左遷の一行が松山味酒一族にちなむ場所として立ち寄ったと充分に考えられるのではないのでしょうか。

②「天神縁起絵巻」に注目する

「松崎天神縁起絵巻」第二巻には菅原道真公左遷の様子が描かれており、配流において、京の都から浪速までは陸路、浪速からは海路で西下されたたとある。その際に本州最後の寄港地であり同族の土師氏が居る周防の国府に立ち寄られています。

③「菅家後集」より「叙意一百韻」を読み解く

「迎えの船は半壞の船」と記述があるので、どこかで船に乗り換えられたと思われる。渡し場の特定はできませんが、船を使わなくては行けない場所に行かれたと考えられます。だとすれば、山陽道から海を渡ると言えば四国もしくは九州に渡られたこととなります。

では①②③の考察より左遷の旅がどのようなものであったか推測してみます。まずは資料から推測するとすべての旅程が陸路のみ海路のみであったことは伺えません。馬も使い船も利用したといえます。

また伝承密度の濃い地域として、「畿内〜岡山辺り」と「北九州〜太宰府まで」の地域を旅するにあたって船を使ったと考えると、あまりに寄港地が頻繁となり時間を

的にも不経済です。この区間は陸路を進んだと考える方が合理的です。

更に四国や北九州（太宰府以外）に伝承が分散しているということは、九州（太宰府）へ向かう経路のどこかの時点で山陽側（本州）から四国へ（九州から四国に戻ることは考えられない）、次に四国から山陽側へ（九州から山陽（本州）に戻ることも考えられない）、最後に山陽側から九州へ渡ったと考えるのが自然であろう。当然、海を渡るのであるからその手段はすべて船旅である。また船・陸（馬）・船と、船を何度も乗り換える（用意させる）ことも旅の性格上考えられません。

以上より、各地に残る伝承伝説を重んじつつ合理性を考え合わせた左遷の旅程は、「菅原道真公は京の都立より陸路西下され広島県呉まで進む。（地図①〜②）そして海路にて四国松山へ（地図②〜③）。必然的にまた海路にて山口県防府へ（地図③〜④）、そして防府を本州最後の地として、さらには九州椎田へ渡られ（地図④〜⑤）、北九州より陸路で博多そして太宰府（地図⑤〜⑥）へ入られた」と結論付けられました。

次回は、日本最初の天神さまが何故防府に創建されたかについて紐解いていきます。

道真公左遷の行程

----- 陸路
 ———— 海路(航路)





大徳寺住職書

是好日

日日

高野山



▲大徳寺住職書

「茶室「芳松庵」開館三十年によせて」 日々是好日

私はこの言葉を心掛けてお茶室でご奉仕しています。

掃除を終え、床の間に花を生け、露地に水を打ち、参拝者を迎える準備が整うと「こんにちは。また来ましたよー」と玄關から嬉しい声が聞こえてくる。これが私の好日のはじまりです。

私は十年前前に宮司さんより月に数日の茶室奉仕をお願いされました。天満宮のお茶室は「作法を気にすることなく気軽に お茶を親しみつつ、あまり知られていない平安時代にお茶の普及の基をつくられた『茶聖菅公』の御遺徳を多くの方に知って頂きたい」と平成三年に建てられました。思い返すと天満宮の茶室という神聖な場所でお茶の『お』の字も知らない私が毎日参拝者にお茶をお出しするなんて神様に失礼ではないか」とすごく緊張した毎日でした。しかし時が経つにつれ、作法にも慣れて茶室にお見えになる参拝者と毎日のお話を通して、いつしか段々と緊張もほぐれ、今では楽しくご奉仕出来るようになりました。

この時間と空間が好きで何度も足を運んで下さる参拝者が多くいらつしゃいます。茶室の杜をゆっくり眺め楽しむ方、静かな茶室で読書を楽しむ方、日常の喧騒から離れ心静かに一服のお茶を頂く方。また、私と他愛もない世間話を楽しむ方（笑）など様々です。そんな方々が口を揃えて言われるのが、「季節の移ろいを感じながら心を無にして一服のお茶が頂けるなんて、これほどの贅沢な時間の過ごし方は他にはないですね」と。私はそのような言葉を聞くたびに、この場所でご奉仕させて頂いていることをとても幸せに感じています。

茶室の木々に囲まれ、目を閉じ耳を澄まして「鳥の声、水の流れる音、木々が風になびく音、雨音…」を五感で感じれば「心が洗われる」「清々しい気持ちになる」参拝者にそんなお手伝いができれば天神様にもお喜び戴けるのではないのでしょうか！お茶室で一服のお茶を頂き、皆様の日々がかけがえのないものとなりますように…。

茶室主任 村松美代



春



夏



秋



冬

今日は成人の日でもないのに晴れ着姿!?(5月3日)



いいえ、今日は成人の日です。

防府市は新型コロナウイルスの影響で成人式を4か月延期し5月3日に変更しました。しかし再びコロナのため、当日市の式典は代表4人だけライブ配信となり、せっかく用意した晴れ着でいつもの公会堂に集合できなくなりました。そこでみんな天満宮大石段の映える花回廊に集結となったようです。

友人3人で参拝に訪れた新成人は、「多くの友人には会うことはできませんでしたが、このようなご時世の中、防府市には成人式を開いて頂きとても嬉しく思いました。これまで育ててくれた両親に感謝しています。この気持ちを忘れず頑張っていきたい」と話していました。

今日は立派な成人の日でした!

ひたぶる

福宜 一木孝史

「目は(顔は)口ほどに物を言う」とはよく言ったものである。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、毎日の検温とマスク着用が習慣となり、マスクを着けていないと顔に違和感さえ感じるようになっていった。

人と会話する時、普通なら相手の表情や口の動きを見るので喜怒哀楽をある程度理解することが出来る。私にとって一番困るのが、片耳が聞こえないせいかマスクのおかげで相手の言葉が聞き取れない事があり、人との会話のコミュニケーションが確実に悪くなっているように感じる。神社は本来、祭りを通して人々

が集う大切な交流の場所でもあるが、人と人が会う事が制限され私達の生活は一変した。会いたくても会えない、行きたいのに行けない、人と接したり会話する事が人間にとっていかに大切かという事をコロナ禍になって改めて感じた。今は祈願者の表情がマスクでほとんど分からないが、神様を敬う心はしっかりとお伝えしなければと、御神前ではマスクを外して奉仕をしている。一日も早くコロナが終息し、マスクを着けずに、相手の顔をしっかりと見ながら安心して言葉(言葉)を交し合える日が来ることを切に願っている。

ご結婚おめでとう

お二人の末永い幸せをお祈り致します

- 令和3年(神社奉式分/敬称略)
- 2月20日 山本 壮汰・明子
- 28日 二階 辰彦・麻衣子
- 3月2日 小川 陽大・恵里
- 6日 磯部 元胤・宇萌
- 20日 綿村 典秀・智子
- 28日 坂本 俊也・結理
- 4月3日 磯村 直輝・藍
- 須藤 優太郎・麻衣
- 24日 森野 雄棋・舞
- 5月2日 西原 尚彦・圭美



- 8日 金子 健悟・杏
- 村上 輝明・夏海
- 福田 博之・真永
- 9日 城 勝弘・智美
- 31日 田中 大祐・七美

※神前結婚式のお申込みは随時受付けておりますので、社務所へお問い合わせ下さい。(TEL0835-23-7700)

表参道にまたひとつ名店が出現!

今春、大鳥居横に「どぶろく cafe みづは」がオープン致しました。店名は表参道に鎮座している酒垂神社の御祭神「水波能売命」から頂戴したそうです。どぶろくをベースに、ハイボール、甘酒・ソフトクリーム(ノンアルコール)など取り揃えています。参拝の折にぜひお立ち寄り下さい。



▲内観

■営業時間

金・土・日・月 10:00~15:00



▲外観

節分祭開運招福「豆わかち」

二月二日に斎行。本年はコロナ感染拡大防止の為、開運招福「豆まき」にかえて開運招福「豆わかち」を行いました。「豆わかち」とは参拝者に豆を拾ってもらって代わりに歳男歳女により福豆を手渡しして頂くものです。尚、本年は明治三十年以来百二十四年ぶりに立春が二月三日となり、節分が二月二日となりました。

従来、牛替神事の神くじ「仁」「信」の景品はそれぞれ雄牛雌牛でしたが、本年神事の見直しが行われ「信」は錫製牛置物と十万円分市内共通商品券に変更となりました。



令和三年「神牛役」 山口市仁保下郷 大田隆司氏

おめでとうございます

日誌抄

(令和三年一月～五月)

- 毎月1日、15日、25日は月次祭
- 毎月1日は朔日詣り朝粥会、毎月25日は天神市(緑日)
- 毎月25日の月次茶会は4月以外全て中止
- *新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に**中止**・※影響関連行事
- *崇敬会研修旅行、神道家まほろば会研修旅行
- 歳日祭※書き初め会、梅茶接待、天神おんな神輿写真展
- 1月1日
- 4日～8日※初詣企業参拝を参集殿神殿にて斎行新始式
- 5日
- 7日 七草粥の会(※於参集殿神殿)、梅開花宣言
- 11日 真宮遙拝式、弓始式
- 12日 米子空港受験合格祈願大給馬設置
- 13日 鳥取空港受験合格祈願大給馬設置
- 16日 ※山口宇部空港・岩国錦帯橋空港は年末に実施大殉育成講習会
- 24日 牛替神事抽籤児童説明会
- 25日 新年役員会
- 27日 牛かえ神報新聞折込
- 30日～2月1日 福豆頒布総代奉仕
- 2月1日 ※中止していた朝粥を紅梅殿にて再開
- 2日～3日 **節分祭並第一〇回牛替神事**(※抽籤児童もちまき)節分祭限定朱印
- 2日 戴男歳女開運招福豆まき並豆わかち奉仕
- 4日 防府北ロータリークラブ様「志御守」840体お祓い
- 4日～10日 牛替神事福運者当籤番号券景品引換
- 5日 伊藤様「究極の滑り止め板くつ底キャッチャー」奉納第45回防府お針祭
- 7日 牛替神事当籤者神牛引き渡し
- 10日 紀元祭、人形感謝祭人形受付開始(2月28日迄)
- 16日 大村印刷様創業一〇〇周年植樹奉納奉告祭
- 17日 出世梅奉製作業総代18名奉仕
- 21日～3月3日 第十六回梅まつり(※敬神婦人会甘酒接待、山縣酒造梅酒試飲会、梅まつり茶会、文化講演会)期間中梅まつり限定朱印頒布
- 21日 梅まつり始祭稚児舞紅わらべ奉納、出世梅無料配布
- 21日～3月3日 全国陶器市
- 26日～28日 脇本順子作陶展、手作りアークセサリー(O.T.E.)アナタニハナヲ、山城屋茶舗京の陶磁器展、平井佳代布小もの作品展
- 27日～28日 池坊防府支部奉納生花展
- 28日 梅花祭(※於参集殿神殿) 稚児舞奉納、琴演奏会、天神芸術村開催、出世梅無料配布
- 人形感謝祭、出世梅無料配布
- 3月1日
- 1日～5日 人形里親探し
- 3日 中国地方観光振興アワード表彰授与式(防府天満宮花回廊実行委員会受賞・於茶室)
- 5日 責任役員会
- 10日 大村印刷様創業一〇〇周年記念奉告祭

令和2年の神事行事

止せざるを得ない事態となりました。

中でも当宮最大の祭り御神幸祭「裸坊祭」は三密を避けるため、裸坊奉仕は中止、御網代や神輿は出御せず、御神霊を県内の青年神職の御奉仕により「唐櫃」でお運びする渡御に変更し、奉仕者も最低限



▲浜殿神事
浜殿では舟型石に菅原道真公の御神霊を納めた唐櫃を安置。本年、神職は玉垣内にて奉仕した。

に留めることとなりました。しかし、当日防府観光コンベンション協会の協力により、祭りをよく知る旧職員が様子をすべてインターネット中継致しました。すると遠近より「御神幸祭ってそういうお祭りだったんですね」といった感想が多く寄せられ、コロナのお蔭で逆に祭り本来の意義をPRをすることができました。

また、お正月は全国で分散参拝が叫ばれる中、「さかたり」一〇六号でもお知らせの通り12月25日から31日までの「予祝詣」と称し縁起物などを頒布、またインターネット等を通じて祈願祭の受付や御守郵送受付の



▲令和2年より神名旗を奉製し、各御神霊のお近くに奉仕した。

は規模を縮小したり中

防府天満宮大石段花回廊

中国運輸局主催の「中国地方観光振興アワード」を受賞。地域の様々な団体が連携を深め観光に携わる人的ネットワークの拡大を図りながら観光振興に取り組んでいることが評価されました。



▲写真前列右より観光コンベンション協会羽嶋会長、池田市長、鈴木宮司、中国運輸局河原畑局長、幸せますフェスタ実行委員会喜多村会長、中国運輸局九鬼部長（茶室芳松庵にて授賞式）

新総代紹介

(敬称略)

吉武晋五 (四行事区) 戎町 十二月二日付
御手洗正明 (九行事区) 松崎町 四月十七日付

職員人事

(四月一日付)



新入巫女 今満百絵(周南市出身)

宜しくお願ひ致します

11日	敬神婦人会役員会
12日	松崎天神縁起絵巻PR動画完成報告会(於市役所)
14日	茶釜祭※華月会茶会
15日	合格御礼奉告祭
16日	桜開花宣言
20日	春季祖霊大祭※直会
25日	春祭、総代会
31日	御神忌一一九年度御正祭※直会
4月1日	新入学児童勸学祭稚児舞奉納
10日	菊花会総会並正式参拝
11日	酒垂神社例祭
13日	千年のまちほうふ幸せますウィーク2021「第9回防府天満宮大石段花回廊」約800鉢設置(5月15日迄期間中花ガラ摘み奉仕:敬神婦人会、高川学園、防府商工高校、佐波中学校)
14日	オリンピック100日前イベント(大石段前)
17日	大小行司同族会評議員会並正式参拝、新総代就任奉告祭
18日	毛利家春祭
21日	ベル商事(株)様災害用備蓄水100ケース奉納
22日	※職員二班編成による奉仕体制再開
25日	月次茶会表流平野宗順先生(奉仕)
28日	修道高校三年生280名合格祈願祭、※勝ち牛杯氏子対抗ゴルフ大会
29日	5月15日 花回廊限定御朱印
5月1日	崇敬会大祭※崇敬会総会
1日	1日~5日 ※千年のまちほうふ幸せますウィーク2021「お茶と灯りのコンサート」
1日	1日~14日 花回廊ライトアップ
12日	大菊育成講習会
13日	※茶室当面の間閉館※聖火リレー
15日	神仏合同金貼祭、大小行司同族会総会、花回廊プラント1販売 ※金貼祭直会、同奉祝茶会
16日	御神幸祭供養委員会総会並正式参拝
19日	宇部市立東岐波中学校110名合格祈願祭、※梅の小径草刈り作業総代奉仕
20日	梅ちぎり※双葉幼稚園奉仕、敬神婦人会総会
23日	防長海軍忠魂碑慰霊祭※奉納剣道大会
25日	会計監査※天神市
26日	山陽小野田市立厚狭中学校99名合格祈願祭、※梅の小径草刈り作業総代奉仕

ペットをお連れの方へのお願い

最近ペットのマナーに関する苦情が多く寄せられています。境内は神域であり建物は文化財でありますので、皆さまが清々しく参拝できるようにペット同伴の方は回廊内では必ず抱きかかえてください。但し盲導犬・介助犬・聴導犬をお連れの方はそのままお参りください。ご協力いただけない場合は回廊から退出願うことがございます。

ご理解ご協力の程宜しくお願ひ申し上げます。

対応も強化したところ、受験生を持つ親御さんや直接お参りしたいが心配な方達から多くの申し込みを頂きました。コロナ以前から導入した社頭でのキャッシュレスも好評を頂きました。

この先コロナ禍という試練を乗り越えた後、世の中は大きく変化し新たな価値観が生まれていくに違いありません。神道は「時代と共に生きる」ものだと私達は確信しています。「不易流行」という言葉の通り「変わらぬもの」と「変わらなくてはいけないもの」を見極めつつ、皆様に愛される天満宮であり続けていきたいと考えています。

天神様から「幸せます」

※幸せますは山口の方言で「ありがたい」とか「嬉しく思う」との意味があります。

奉納品

ご奉納ありがとうございました。

- 2月5日 「究極の滑り止め板くつ底キャッチャー」 (株)伊藤(光市)様
- 2月11日他 自家栽培野菜 高川学園サッカー部様
- 2月16日 創業一〇〇周年記念梅木一本 大村印刷(株)様
- 4月21日 災害用備蓄水(500ml) 一〇〇ケース ベル商事(株)様

境内清掃奉仕

ご奉仕ありがとうございました。

- 2月11日他 高川学園サッカー部様
- 3月8日 松崎小学校六年生
- 4月9日 マツダ(株)防府工場様
- 4月9日他 庭園文化研究会様

武光恵美女史逝去

防府天満宮大宮司家第三十七代目当主武光正一夫人恵美女史が去る四月二日逝去されました。(享年百三歳)。心からご冥福をお祈り申し上げます

六月三十日(水)

十四時〜御田植祭

並びに輪くぐり神事
十六時〜 夏越大祓

※御田植祭終了後、苗は職員による手渡しとさせていただきます。また、輪くぐり神事・夏越大祓も例年通り斎行致しますが、密集を避け間隔をあけて頂きます様ご協力お願い申し上げます。



▲輪くぐり神事
※同封の案内状をご覧ください

七月一日(木)〜七日(水)

七夕まつり

祭事予定

- 七月一日〜七日 回廊内笹飾り、光の齋庭ゆにわ
- 四日 筆まつり
- 七日 七夕祈願祭 祈願料二、〇〇〇円
コロナウイルス終息を祈り
「国家安泰祈願祭」



▲光の齋庭(傘玉)

※同封の短冊にお願の事を書いてご奉納ください。神職・巫女が短冊に結の願いが叶うよう折念します。

八月三日(火)〜五日(木)

御誕辰祭

祭事行事予定

- 八月三日〜五日 万灯の夕べ、献灯・文芸ボンボリ・ピアガーデン他
- 三日 奉納清書展奉納奉告祭並表彰式、万灯祭、剣道大会
- 四日 豊穰祈願祭、古武道大会、柔道大会、夫婦円満祈願祭
- 五日 御誕辰祭当日祭、少年剣道大会、弓道大会、大花火大会

御誕辰祭献灯・文芸ばんぱり奉納のお願い

ご奉納頂ける方には要項と用紙をお送り致しますので、社務所にお問い合わせ下さい。申込用紙に必要事項をご記入の上、ご郵送でご返信願います。



▲大花火大会

令和3年 これからの祭事行事

九月四日(土)

鈴虫放生祭

防府天満宮表参道西側にある坂は、通称「鈴虫坂」と呼ばれています。この名称は勤王の志士の母と呼ばれた野村望東尼が境内にある大専坊に宿泊された際、聞こえてくる鈴虫の音が大変美しいと言われ呼んだことがはじまりです。平成二十八年(野村望東尼没後百五十年)より縁ある大専坊にて望東尼の御神霊をお慰めすると共に顕彰と鈴虫坂の由来となりました鈴虫の放生を行います。



十月十日(日) 十月第百曜日

花神子社参式

大行司・小行司役が御神幸祭の無事斎行を祈る
大行司・小行司役が醸した一夜御酒を花神子が奉献する社参の式であり、約五〇〇名にも及ぶ優美な時代行列が本陣から社殿まで肅々と進みます。



十一月二十七日(土) 十一月第四土曜日

御神幸祭(裸坊祭)

報賽祭(天神おんな神輿奉納)



▲土曜日の男祭



▲日曜日の女祭

十二月八・九・十五・十六日

大祓詞浄書会(四回開催予定)

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、祭事に付帯する行事は変更・延期・中止する場合がございます。又、社報執筆時期の都合により世情と記事の内容が一致しない場合があります。皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

さかたり第107号
令和3年6月1日発行

発行所 防府天満宮社務所

〒747-0029山口県防府市松崎町14-1
TEL 0835-23-7700 FAX 0835-25-0001